

聖パウロこども園 7月28日（金）

《 0歳児クラスの安全対策 ～ベビーセンスを使って～ 》

厳しかった夏の日差しも、秋風とともに和らいできました。
7月は高砂市内でいち早く“ベビーセンス“を導入している、聖パウロこども園を訪問してきました。

さて、ベビーセンスとはいったい何だろうと思う方もいらっしゃると思います。これは乳幼児突然死症候群（SIDS）の対策として、子どものベッドに設置する特別な装置のことです。子どもの呼吸など身体の動きが低下するとアラーム音とランプで警告が出るようになっています。産院等でも広く利用されている装置です。

*乳幼児突然死症候群（SIDS）とは・・・

事故や窒息ではなく、主に睡眠中に突然死してしまう病気のこと。日本での発症頻度はおおよそ出生 6000～7000 人に1人と推定され、生後2か月から6か月の乳児に多いと言われています。



聖パウロこども園では生後2か月のお子さんから預かれるということもあり、保育士の定期的な見守りとベビーセンスでリスク回避になると考え導入されました。現在、0歳児クラス（もも組）に3台導入されています。クラスの中でも月齢の浅いお子さんや、その日体調の優れないお子さんに優先して使用するそうです。使用時は、布団の下に円型のセンサーパッドを設置し、ベッド柵に本体装置を取り付けるだけで、子どもに負担がかかるとはなりません。

訪問中、ちょうどお昼寝をするお子さんがいたので、実際に使っているところを見学させていただきました。ベッドに寝かせた後、本体のスイッチを入れます。保育士の先生が子守唄を歌いながら頬っぺをさすったり、胸をトントンしてあげるとあっという間に眠ってしまいました。そのとき時刻は11時前、先生はお昼ご飯の準備にとりかかります。給食や子どもたちのエプロンを準備しつつ、お昼寝した子どもの様子を5～10分毎に確認します。顔色を観察したり、胸に触れたりして呼吸の様子をみます。訪問中にアラームが鳴ることはなく、気持ちよさそうにぐっすり眠っていました。

ベビーセンスの紹介をしてくださった坂牛園長先生が「人間の目と装置とのダブルチェックで子どもの安全を確認しています」とおっしゃったように、2つの目でしっかりとお子さんをみておられました。また、生後間もないお子さんを預かるということは緊張感を伴うことです。そのような中でベビーセンスは先生達の手助けもしてくれます。保育士の先生も「目安の一つになり安心です」とおっしゃっていましたが、先生達の心労を和らげてくれるという点でも役立っているようです。

聖パウロこども園では、乳児期の“ここは自分の場所”という“場所感覚の安心感”を大切にしている、簡易式のベッドを使用して一人一台ベッドがいきわたるようにしています。今後は簡易式のベッドでもベビーセンスが使用できないか検討中で、将来的に全員にベビーセンスがいきわたるようにしたいと考えているそうです。また、0歳児クラスの照明は調光機能付きのものにし、お昼寝の時間は暗くなりすぎない、心地よい明るさに調整しています。明るさ一つをとっても子どもの発達面を考慮した工夫がなされています。



ベビーセンスを見せていただいた後、園庭や食事の様子も見学させていただきました。聖パウロこども園の園庭は広く、緑がいっぱいです。年齢別に遊具を分けて置き、発達に応じた遊びができるように工夫されています。近頃はブランコに乗れない子どもが増えているとのことですが、揺れる体験と身体を鍛えることを目的として未満児さんのスペースにブランコを設置しています。安全面を考えて、座面は軽いプラスチック製のブランコにしています。4・5歳さんスペースには“スーパーノヴァ”という変わった遊具が置いてありました。子どもの興味を惹く遊具を導入し、園庭遊びにも力を入れています。

食事は短時間で集中して食べることを心掛けておられます。0歳児クラスでは、まだ体幹が不安定な子どもは先生のお膝に抱っこして、食事と向かい合って食べられるようにします。そうすることで食事に集中でき、“今は食事の時間”という感覚を身に付け

ることをねらいにしています。スプーンは口の中に入った時にちょうどよい大きさと形状のものにこだわり、唇に触れる程度に食べ物を運び、自主的に口を開けて食べるように促します。食器は子どもたちが自分ですくいやすいよう“ふち”がついているものを使用されています。園長のオススメの食器で、クリスマスにプレゼントすることもあるそうです。

今回の訪問を通して、SIDS 対策をはじめとした子どもの安全を守る取り組みや、子どもの発達を促す様々な工夫を感じとりました。保護者の方も安心してお子さんを預けられるのではないのでしょうか。